

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472900113		
法人名	医療法人豊和会		
事業所名	グループホーム やまもも		
所在地	三重県志摩市阿児町国府1061-153		
自己評価作成日	令和4年 1月 10日	評価結果市町提出日	令和4年3月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JizyosvoCd=2472900113-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JizyosvoCd=2472900113-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 4年 2月 7日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人の中のグループホームで、健康管理面で緊急の受診等にも対応可能な体制が整っており安心であること。主治医による訪問診療も2週間に1回実施しており、投薬の要望や体調に応じた変更など柔軟に行っている。この2年間はコロナ禍という事もあり、外部との関りがもてない環境の中、敷地内の畑や近隣の散策、お花見のドライブなど職員の工夫により、入居者様が穏やかに日々を過ごせるよう努力をしている。施設の中でも季節を感じて頂けるよう、四季折々の風情を取り入れた手芸や工作を提供している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

病院・老人保健施設・有料老人ホーム・デイサービスセンター・認知症対応型ホーム・居宅支援事業所・訪問看護ステーション・ヘルパーステーション・福祉用具販売店とを併設し、医療・介護保険関連事業全てを運営する事業所である。家族からはいつも職員は笑顔で対応してくれると喜ばれ、職員がいつも笑顔でいるとそれだけで心が和み居心地の良い空間が生まれる。職員は現在の心身状態を維持して家の様に此処で暮らして欲しいと望み、楽しく一日一笑、笑顔で利用者と共に日常生活を送っている。そうした環境が整ったなかでモチベーションが動き出して、認知症の人のエネルギーがふつふつと湧き立つようなそんな関わりをしていきたいと支援を続けるホームである。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は皆の進むべき道を示していることを職員一同で意識し、常に心にとめるよう施設内に掲示している。	理念は玄関・廊下にパッチワークで作り掲示しており、職員はそれを毎日心にとめるようにしている。個々人の様子を見ながら、日頃やりたい事・出来る事を束縛しないように心掛け、毎年度初めに職員会議で理念を振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症の感染防止の為、地域との関りは現在停止している。運営推進会議の参加者の方々に、ホームの活動については文書で報告している。	コロナ禍の為、地域の行事は全て中止であるので現在は交流は全くないが、運営推進会議の会議録を送付して地域との付き合いは書類上で交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は特に行えていないが、感染症の流行が終息した時には、以前行った『認知症カフェ』を再開してみたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内での会議は、感染防止の為行えていないが、文書による会議は2カ月に1回継続している。温かい労いの言葉をたくさん頂き励みになるとともに、行政の方からは、感染症関連の情報提供を頂くなど有用な場となっている。	コロナ禍の為、2年前より開催は中止しているが、入居者状況・行事・活動報告を記入し、事業所独自で会議を偶数月に開催し会議録と意見書を付けて参加者に送付して要望・意見を聞いている。各参加者からは活発な意見・要望が出ておりサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	出来る限り足を運び、情報を頂くなど連絡を密にしている。特に運営推進会議の担当の方には、運営上の疑問など、何でも聞きやすい関係を築けていると思う。	介護保険の更新手続き・相談・資料を取りに伺い、市担当者と対面している。運営推進会議での報告時の意見書等で良く意見を頂き協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームにおいて、身体拘束はあってはいけない事と職員は全員理解しており、身体拘束をしないケアが実施されている。研修等も行い、常に啓発に努めている。	身体拘束・虐待防止・言葉の拘束について、年2回職員勉強会を実施している。また、法人で開催される身体拘束廃止委員会に毎月参加し、法人の拘束事例・帰宅願望者についても検討会を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部で折々研修を行い虐待の防止に努めている。施設内の会議の場でも、毎回、必ずチェックリストを用いて点検を行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市役所等に配置されている啓発のためのパンフレット等を頂き、施設入り口に設置して気軽に閲覧できるようにしている。また、職員は研修に参加し学んでもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結には、管理者もしくは担当の相談員が立ち会って、丁寧に説明をしながら行っており、疑問や不安に答えながら契約を結ぶようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	折に触れ、利用者様の様子を電話やラインのやり取りでお伝えするようにしており、その時に要望など聞き出す努力をしている。	窓越しの面会時、また、ラインで行なう事があるのでその時に意見等を聞いている。また、通院時、必要品の依頼電話等でも意見の把握の機会がある。面会に来ると退屈そうに過ごしているので何かお手伝いをさせてやって欲しいと意見があり役割を決め実行した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議で、意見を汲み上げており、提案により、業務の改善や変更を柔軟に行っている。	毎月の職員会議や普段の支援中に意見が出る機会がある。また、業績考課が年1回あり、自由に意見を述べられる時がある。全ての記録を紙ベースからデジタル化にすることや、レクリエーションの種類増加等の提案があり、検討の結果実施に至っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の業績考課では、職員の業務への取り組みについて、丁寧に上部へ伝え、やりがいにつながるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報提供や参加への促しを行い、個々のレベルアップを目指し環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	志摩市介護サービス事業者連絡会に属しているが、現在コロナ禍の為活動は情報提供を頂くのみで、停止している状態である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所直後は特に声を頻繁にかけ、不安の解消や話しやすい雰囲気を作るよう、職員一同が心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設内での面会が再会できていないので、入居日の荷物の搬入の際には、特に丁寧に対応し、不安や疑問を解消することがより良い関係を築く第1歩であることを意識するようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランの希望についての聞き取りをしっかりと行い、どんな生活を望んでいるのかを把握するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	さまざまな日常生活の作業を一緒に行う事で、家族に近いような関係を築けたらと考えている。ただ、馴れ合いではなく尊厳に配慮した関係を忘れない事は常に意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が制限されている事をしっかり念頭に置き、事務連絡と共に折に触れ入居者様の様子を詳しくお伝えするようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外との面会は原則お断りすることになっているが、家族に意向を確認するなど積極的に調整し、出来るだけ希望に沿えるよう、また、安全にコミュニケーションが取れるよう工夫している。	ドライブで以前住んでいた場所を回ったり、かかりつけ医にも受診している。近所の方の来訪や、家族・友人に携帯電話を掛ける利用者もいる。また、年賀状を作成し送付している。コロナ禍の中での限度はあるが、出来るだけ要望に答えられる支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	9人という小さな集団であるが、それぞれ関係性があるので、職員間で情報を共有し、ストレスなく日常をお過ごし頂けるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍でなかなか退所された方を訪問する事は難しい状態であるが、年賀状を送ったり、転所先の職員さんや、訪問診療に入っている担当者に様子を伺ったりするなど、心に留めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションの中で得た小さな情報などもしっかり介護記録に残し、職員間で共有するようにしている。	1対1になった時(夜間時・入浴時等)や、日頃の日常会話の中での表情・仕草で様子を見ながら声掛けし、把握した希望意向は会議録に記入し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族からご本人の年代別の記録を提出いただいたり、ご本人については担当の職員がシートを使って聞き取りをするなど情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン作成時、心身の状況や出来ること出来ない事シートなどを活用し把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成時はご本人及び、家族の意向を確認し作成するようにしている。モニタリングは、月1回の職員会議の場で検討し、次のプランに反映させている。	毎月ケアカンファレンスを行っているが、会議記録より3ヶ月毎にモニタリングを行い、評価して見直しを行っている。心身の情報・出来る事・出来ない事シートを作成し、状態の変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録、バイタルの記録、ワークシートを活用し情報の共有を行っている。また、口頭でもしっかり申し送り、漏れなく共有できるよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護記録の電子化に取り組み、業務の改善に努めている。また、タブレット端末を取り入れ、ライン面会や家族との連絡に活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関りが現在遮断されている為、感染症終息後にはまた、地域の中へ出かけて行けるよう情報を収集したいと思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様及び、ご家族の希望するかかりつけ医を選んで頂き、受診の支援やDrとの連携に取り組んでいる。	従来のかかりつけ医の受診は一人で、家族が受診支援している。他は法人病院が協力医であり、月2回定期訪問診療があり24時間対応である。歯科医は要望により月1～2回位定期訪問診療を行い、歯科衛生士が口腔ケアに来訪している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する施設の看護師と医療連携協定を結んでおり、日頃の健康管理についていつでも相談できる体制となっている。医療連携健康管理票を活用し情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループホームの相談員が病院の地域連携室と日頃から情報交換を密にし、入退院時もきめ細かく連絡、相談に応じる体制ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に、重度化した場合の指針については文書を交わし説明し了承を頂いている。終末期の家族の希望なども併せて伺うようにしている。	契約時に看取りの指針で家族に説明し同意書を交わしている。今まで看取りの経験はないが、終末期のアンケートで意向を聞いている。	今後も重度化や終末期の対応は欠かせられないと思われることから、全職員を始め関係者が理解の上、事業所の方針を共有し更に定期的に家族と話し合いの上、重度化や終末期の対応をされる事を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを職員に周知するとともに、入居者個々に応じた対応についても、その都度話し合い、共有するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災や地震を想定した避難訓練を実施し、非常事態も慌てず行動できるよう訓練している。また、感染症及び自然災害に応じたBCPを職員間で話し合い作成している。	ホーム独自で年2回、夜間・地震想定で通報・消火・避難訓練を避難場所を駐車場と決め行っている。また、利用者の使用するシルバーカーに防災頭巾が入れてあり、かぶり方の練習も実施した。備蓄は(非常食・水)を3日分、非常用品(発電機・使い捨て食器・おむつ)を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴の場面でのプライバシーへの配慮を忘れない事。また、丁寧な言葉使いを心がけるよう周知している。	敬語を使い羞恥心に関わる事は、さけるようにしてひとり一人の尊重を大切にしている。法人の研修が毎月あり、法人が作成した介護技術の資料を使用し言葉使い、介護方法、プライバシーの保護等を学び職員の資質向上を図りながら、利用者を支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	答えを急がず、利用者様が本当の気持ちを言葉にできるような言葉掛けや雰囲気作りを大切にしている。業務を優先させないよう、利用者様優先を第一にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の過ごし方は特に決まりはなく、入居者様が思うままにお過ごし頂いている。ぼんやりされている様子があれば、その方に応じた過ごし方を提案し、楽しんで頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年1回バザーを開催し、お好みの洋服など自由に選んで頂き、お買い物気分を味わっていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや、お茶の準備などできる事を無理せず参加頂いている。後片付けの食器拭きは、皆さんが積極的にお手伝い頂いている。	食材はネットスーパーで買い入れ、献立は法人施設の管理栄養士が作成し、それに合わせて職員が調理して利用者は役割に応じてお手伝いに参加している。また、法人施設の厨房で作る行事食・寿司の日等、各種計画され調理実施され楽しみな食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、月一回管理栄養士の訪問があり、指導頂いている。水分については食事の時に十分摂取頂くとともに、ペットボトルでの配茶も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、共用洗面所または、居室の洗面所でしっかり歯磨きをして頂いている。義歯は夜間に消毒をして翌朝返却している。ご本人の状態に応じ声掛けや、仕上げ磨きなど介助もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ワークシートに個々の排泄の記録を残し、排泄のパターンを把握、トイレ誘導の声掛けの目安としている。声掛けはプライバシーに配慮した言葉や声のトーンをで行うよう配慮している。	排泄記録をワークシートに記入し、定期的にトイレに誘導し見守り支援をしている。今は全員が尿・便意を訴える為、現在の状態を維持継続する方法を職員間で考え自立にむけた支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録を基に、Drとも連携し、服薬の調整や水分補給の目安とし、便秘解消や予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日風呂は準備しており、各入居者は週に2~3回のペースで入浴頂いている。季節感を取り入れず風呂や菖蒲のお風呂を準備する事もある。	3日毎に入浴支援をしているが、全員、湯舟に浸かり自分のペースでゆったりと入浴している。季節感を取り入れる為、職員が持っている菖蒲・柚子等を利用し、会話を楽しみながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室のベットは何時でもお休み頂けるよう、ご自身の思うままに居室に戻ってゆっくりして頂ける状態を作っている。寝具は定期的に変換し、いつも清潔な状態を維持するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は全て職員が管理しており、服薬情報のファイルを作り、いつも最新の情報を更新して間違いのないよう支援している。服薬介助後は、必ずその内容を記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時にその方の過去の生活歴の聞き取りを丁寧に行い、その方のお好みや意欲に応じた役割を持って頂いたり、話のタネを膨らませ、会話が弾むよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でなかなか家族との外出が出来ないことが悩みの種であるが、その分を補えるよう、天気の良い日は積極的に声を掛け外気浴にお誘いしている。気候の良い時期は玄関先にテーブルを設置し、お茶とお菓子を用意してカフェ気分を味わってもらっている。	ドライブを兼ねて花見(桜・ルピナス・彼岸花)また、以前住んでいた場所を回ってきたり、畑の花、野菜を収穫したり、玄関先でおやつタイムをしている。天気の良い日はホーム周辺の散歩を取り入れ、出来るだけ外気浴を楽しめるように工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小使いをお預かりし、ご本人の要望に応じ必要な物の買い物支援を行っている。コロナ終息後には一緒に買い物に行ける日を楽しみにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	タブレット端末を活用しライン電話でお話しいただいたり、年賀状作成の支援をしている。携帯電話をお持ちの方は、スムーズにお使い頂けるようお手伝いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を入居者様に生けて頂いたり、作成された手芸や色紙の作品を飾ったりして、明るく暖かい雰囲気になるよう配慮している。定期的な換気も忘れず行っている。	玄関は利用者が作った季節毎の作品が所狭しと飾ってあり、リビングは窓越しにお互いに向き合う利用者の様子が見られ、室内には季節の花、利用者が作った季節感がある沢山の作品が飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間はゆったりとくつろげるスペースを確保し、気の合った方同士おしゃべりを楽しんだり、机を用意して新聞や雑誌を楽しんで頂いたり、思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へはお好みの家具や使い慣れた物を持ち込み頂くことが可能で、ご家族の写真を飾ったり、リハビリ指南の写真を貼って体操を行ったり、ご自由にお使い頂いている。	コロナ禍の為、窓越しより、ベッド・クローゼット・洗面台・木製の椅子が備え付けられ、本人・家族の意向に添って居心地良く過ごせる支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー仕様となっており、手すりが設置され、安全に移動できる環境を整えている。事故なく移動されるよう常に見守り、転倒防止に努めている。		